

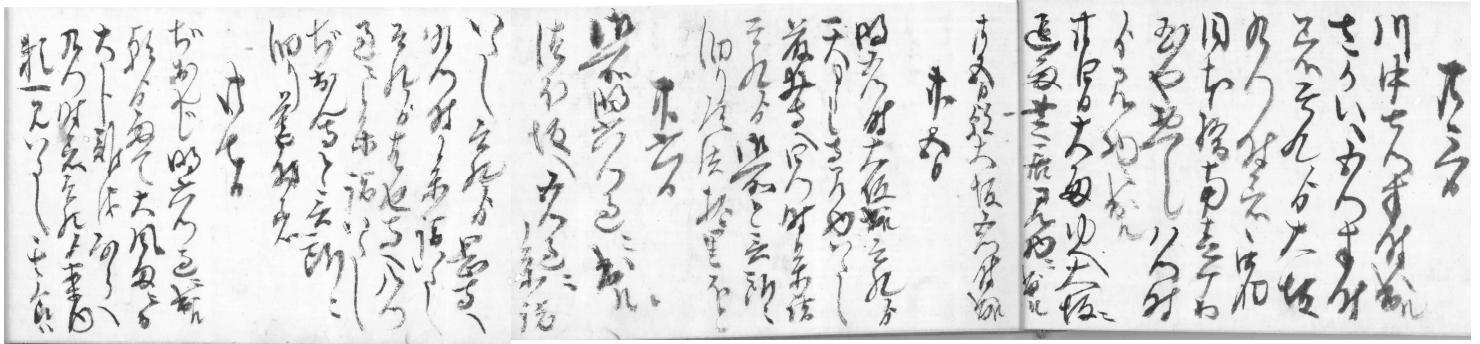
郷土の古文書

その39 伊勢参宮道中日記(三)

編集・発行：五日市郷土館

あきる野市五日市920-1

発行：令和6年11月12日



解説文

廿三日

川中七ツ半時出ル (堺) さかいへ五ツ半時

着 (より) それ方 大坂九ツ時着 宿日本橋南屯丁め玉や惣兵衛 八ツ時方見物ニ出ル

廿四日大雨ゆへ大坂 逗留芝居見物ニ出ル 廿五日朝大坂五ツ時出ル

廿五日

明五ツ時大坂出ル (王寺) それ方天わうし

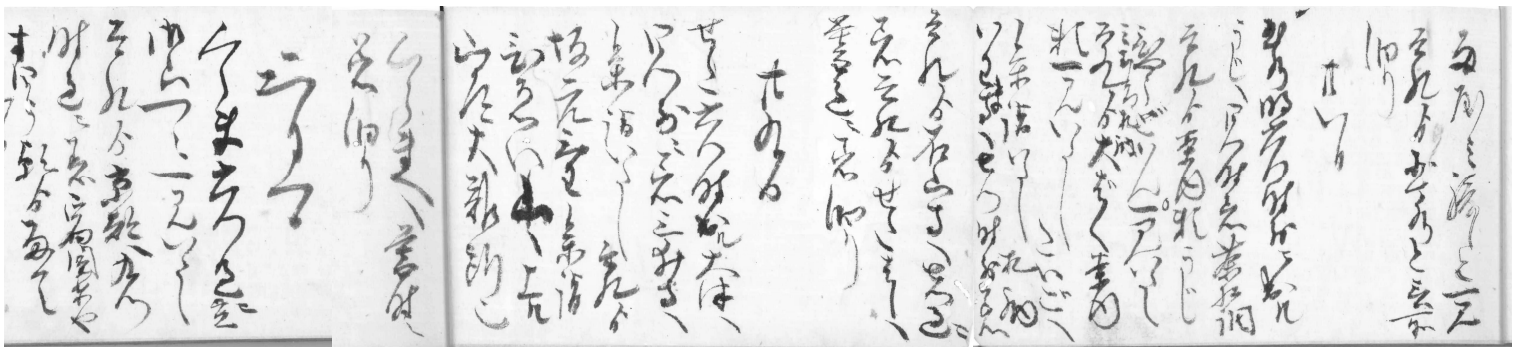
寺見物いたし (葛) 藤井寺へ四ツ時参詣 (こせ) それ方御所と言所ニ泊り 道法拾里ほと

廿六日

御所明六ツ時過ニ出ル (壺阪) つほ坂へ五ツ時参詣いたし (長谷) それ方岡寺へ九ツ時参詣いたし (慈恩) それ方はセ寺へ八ツ時参詣いたし (慈恩) ちおん寺と言所ニ泊り 暮時着

廿七日

ちおんじ明六ツ時過ニ出ル (奈良) 朝方雨天 大風雨ニ而大分難儀 ならへ九ツ時着 それ方案内頼一見いたし 其節へ



雨やミ給しニ一見れそれ方玉水と言所泊り (たまみず)

廿八日

玉水明六ツ時前ニ出ル (宇治) うじへ四ツ時

着 (とこのそ) 茶相 調 (宇治三室戸寺) それ方案内頼うじ

ひやうどいん一見いたし (黄檗山萬福寺) ミむろ

札納 (醍醐) それ方大ばく案内頼一見

いたし (岩間) たいへ参詣いたし札納

いわま寺へ七ツ時前着 (瀬田橋) それ方石山

寺へ七ツ時過ニ着 (鞍馬) それ方せたはしへ暮過ニ着泊り

廿九日

せた六ツ時出ル 大津へ四ツ前ニ着 (本)

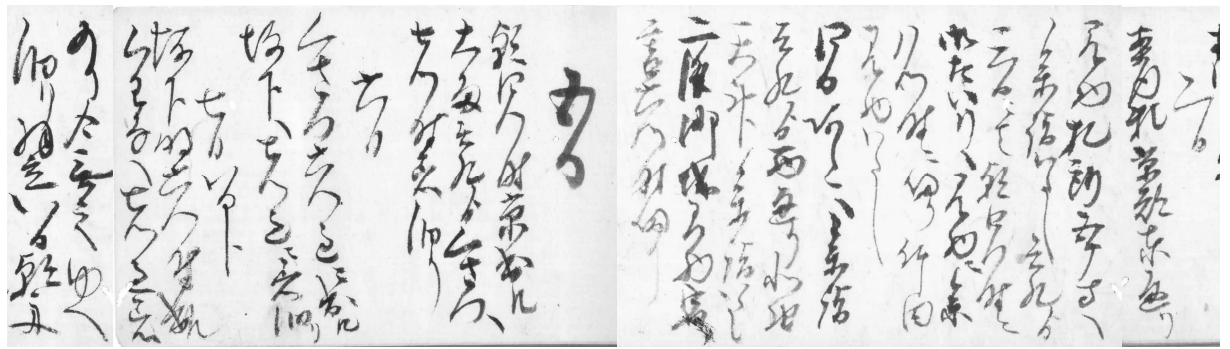
三井寺へ参詣いたし (山王権現) それ方坂元

三王参詣 (比叡) ひゑい山へ上ル山道大

難所也 (鞍馬) くらまへ暮時ニ着泊り

三月一日

くらま六ツ時過ニ立 御山一々一見いたし (比叡) それ方京都へ九ツ時過ニ着 宿関東や半四郎 朝方雨天



二日

案内頼京都東通り見物 札所五ヶ
寺へ参詣いたし それ方三日は朝四

(内裏)

ツ時御たいりへ見物参 八ツ時三

(竹林カ)

り 竹田見物いたし

(阿刀神社)

四日 阿とへ参詣 それ方西通

り北野天神参詣いたし 二條御城見
物 宿(暮六ツ時)帰り

五日

朝四ツ時京出ル 大雨 それ方

(草津)

くさつへ七ツ時着泊り

六日

くさつ六ツ過出ル 坂下へ七ツ過着

泊り

(ママ)

七日 八日分

(桑名)

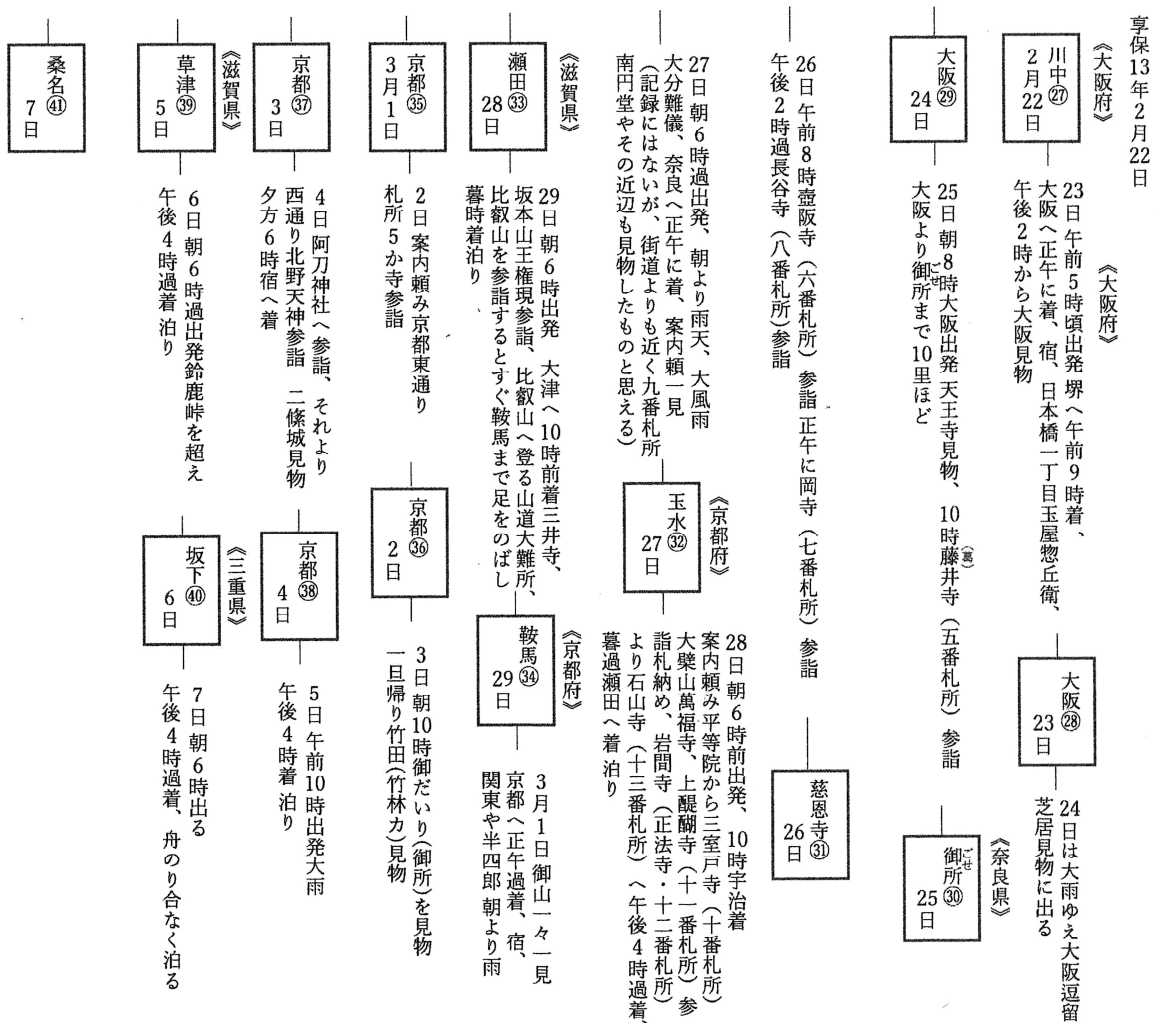
坂下明六ツ時出ル くわなへ七ツ過

着 のり合無之ゆへ泊り

(以下次号へ続く)

伊勢参宮道中日記(三)の道中図解 ※□は泊まった所

[大阪府川中から大阪・奈良・滋賀・京都を見物帰路三重県桑名まで]



解説

2月22日泊る宿に苦勞した川中を23日午前5時頃出発して堺を通り大阪の宿玉屋へ12時に着き、午後2時頃より大阪見物に出ています。24日は大雨のため大阪で2泊し、久しぶりに寛いだ一行は芝居見物もしています。大阪を25日に出て天王寺、葛井寺（五番札所）を参詣、竹内街道を南下して、奈良県の御所に着き泊まります。

26日御所を朝6時過出発8時すぎ眼病治癒で名高い壺阪寺（六番札所）を参詣、続いて古代の飛鳥の名所を眼下にする丘に建つ岡寺（七番札所）を正午に参詣、午後2時過に長谷寺（八番札所）に登って参詣すると、前に通ってきた路を戻り慈恩寺という所に暮時に着き泊まります。

27日朝6時過出発、大風雨の中大変な思いをして奈良へお昼時着き、記録にはありませんが、「其節ハ雨やミ給し二一見」と、案内人を頼んでいるところから、興福寺や南円堂（九番札所）、近くの東大寺や薬師寺等も見物したのではないのでしょうか。その日は玉水に泊まります。

翌朝6時前に出発、宇治へ着き8時頃おみやげのお茶を買っています。そ

して案内人を頼んで宇治平等院から、現在花の寺として有名な三室戸寺（十番札所）、黄檗山萬福寺を参詣します。

それより下醍醐へ行く里の路には古墳や名所旧跡が多くあり、のどかな風景だったので皆ゆつたりした気分を足を進めたでしょう。ここから上醍醐迄の巡礼道は一里の登り道で三十二番札所の観音正寺とともに難所の一つであると言われています。登り切ると上醍醐寺（十一番札所）に着き、すぐ下には寺の由来にかかわる閼伽井があり、千年も枯れたことのない清水が湧き出ているので、一行もこの水で喉を潤しひと休みしたと思えます。それから山上の路を一気に下り、午後4時前滋賀県の岩間寺（十二番札所）、4時過石山寺（十三番札所）を参詣、暮過に瀬田橋の近くの宿で泊った模様です。

29日瀬田を朝6時に出て大津へ8時前に着き三井寺（十四番札所）、坂本の山王権現（日枝大社）参詣の後比叡山へ登るのですが「山道大難所」とあり、一行は疲れていると思えますが、比叡山を参詣するとすぐさま鞍馬へ向かい暮時に着き泊まっています。

3月1日鞍馬を朝6時過出発、「御山一々一見」とあることから鞍馬寺は勿論、鎮守由岐社拝殿、また寺域の峰々に

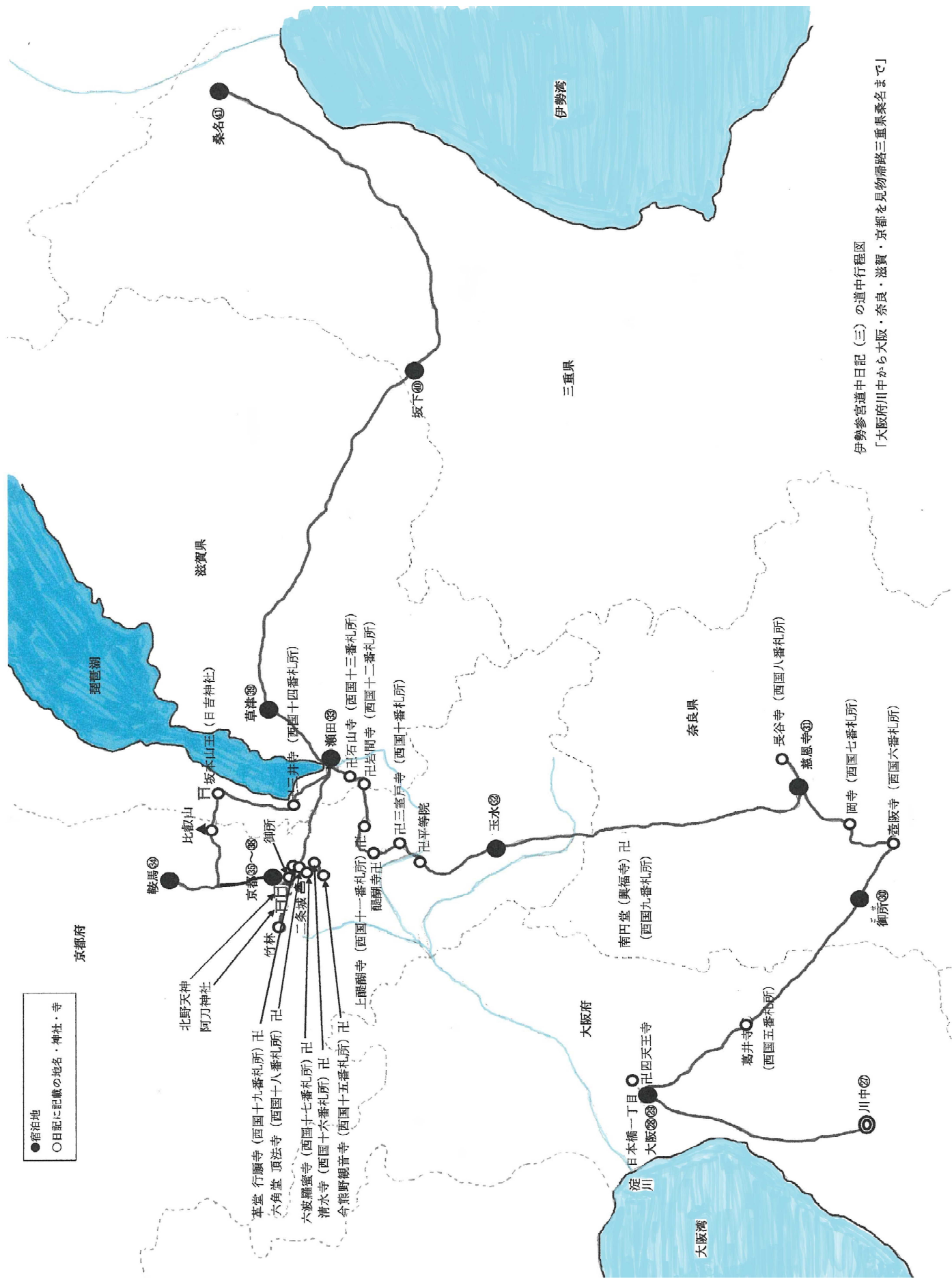
は平安末期から鎌倉・室町時代の群集経塚があり、江戸時代にも営まれていたため、それらの山々を見物したものだと思われます。それより京都へ下り正午過に宿閑東や半四郎へ着。朝より雨に降られ只管歩き続けてすっかり疲き切った一行は、その日は半日宿で体を休め今迄の疲れも少しはとれたことでしょう。

2日には案内人を頼み京都東通りを見物します。「札所五ヶ寺へ参詣」とありますが、名称は記録されていません。札所を十四番迄順番に歩いてきたところから推測すると、観音寺（今熊野・十五番札所）・清水寺（十六番札所）・六波羅密寺（十七番札所）・頂法寺（六角堂・十八番札所）・行願寺（草堂・十九番札所）の5か寺を巡ったと思われます。

3日には朝ゆつくり10時頃御所を見物に行き、一度宿に戻りその後、午後2時頃竹林の見物に行き、また同じ宿に戻ったと思われます。4日は阿刀神社へ参詣しています。この神社は弘法大師の母方の阿刀氏の神社で、延喜式内社であったため、現在は小さな神社になっっているものの、元は広い境内で立派な神社だったようです。真言宗大悲願寺（あきる野市横沢）が菩提寺で檀家総代の一人でもあった兵左衛門（寛日

記の筆者）は、真言密教の教祖である弘法大師縁の場所には是非とも寄りたかったのではないかと思われます。それから京都西通りの北野天神や二條城を見物し、宿へ暮の6時頃帰っています。それにつけても、よく雨に降られながら一日8時間から9時間も歩き続け、皆無事に帰途につけることになって、一行の世話役を担ってきた兵左衛門達は、一先安堵の胸をなでおろしたことでしょう。4泊して京都見物をした一行は、これより帰路につきます。

5日朝10時出発、大雨の中草津へ午後4時過に着き泊まり、翌6日朝6時過草津を出て、鈴鹿峠を越え坂下へ4時過着き泊まりました。坂下を朝6時に出発し午後4時過に桑名へ着き、そのまま宮まで舟に乗り一気に帰ろうとしたのですが、あいにく舟の乗り合いの人達がいなかったため桑名で泊まることになったようです。当時の伊勢湾は桑名から宮の近くまで海岸が入っていたため、宮まで舟はまっすぐに海を進められたのです。



伊勢参宮道中日記(三)の道中行程図
「大阪府川中から大坂・奈良・滋賀・京都を見物帰路三重県桑名まで」